

令和8年度

施政方針

未来から信頼されるまちづくり



広島県神石高原町

令和8年度 施政方針

1. はじめに

本日ここに、令和8年度神石高原町一般会計、各特別会計、病院事業会計並びに農業集落排水事業会計の当初予算案を提出するにあたり、新年度に臨む私の所信及び町政運営の基本方針を申し上げ、町民の皆様をはじめ議員各位のご理解とご協力を賜りたく存じます。

新町発足以降、私たちは「人と自然が輝く高原の町」という将来像を掲げ、「本当に住んでよかったと実感できるまち」の実現をめざし、住民と行政が一体となり、数々の困難を乗り越え、挑戦を重ねてまいりました。

こうした挑戦の取組が定着してきたのは、町議会をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力があったこと成し得たことです。改めて深く感謝申し上げます。

さて、来たる新年度の大きな挑戦として、8月に開催を予定している「第19回日本スカウトジャンボリー」、そして「福山シティFCユース事業」の本格スタートなどが控えています。

いずれも、人口減少対策や関係人口の構築など、本町に新たな地方創生の風をもたらすための取組です。

これらを踏まえ、令和8年度はこれまで築き上げてきた「インフラ整備」や「挑戦の心意気」をベースに、本町の持続可能な未来に向けた、極めて重要な

一年であると考えています。

次に、「昨今の情勢」について申し上げます。

現在わが国を取り巻く環境を見渡しますと、世界はかつてないほどの激動と分断の中にあります。

長期化するウクライナ情勢や緊迫する中東情勢、さらには東アジアにおける安全保障環境の変化など、地球規模の動揺は、円安と相まったエネルギー価格や原材料費の高騰を招き、資材費や食料費などを押し上げ、最終的に個人の家計に大きな影響を与えています。

地域の皆さんの切実な声をお聴きするたび、私たち行政は今、この荒波から住民を守る「防波堤」としての役割と、未来へ導く「羅針盤」としての役割の双方を、これまで以上に求められていると感じます。

そうしたなか、国政では昨年末、物価高対策などの総合経済対策として18.3兆円の補正予算が成立しました。

本町でも国の動きに連動し、2月3日には臨時議会を開催していただき、国の経済対策による食料品等の物価高騰対策事業など、迅速かつスムーズなスタートを切ることができました。

改めて、橋本議長並びに議員各位のご協力に心より感謝を申し上げます。

また、先の衆議院議員総選挙において、「責任ある積極財政」、「安全保障政策の抜本的強化」、「政府のインテリジェンス機能強化」などの重要政策の転換を掲げ、第2次高市内閣が発足しました。

122.3兆円という過去最大規模の一般会計予算、物価高対策としての消費税減税議論、株式・国債・円相場などの市場動向など、国民が注視する政治情勢が続いています。

次に、「広島県予算編成方針」との連動についてです。

広島県が編成中の令和8年度一般会計当初予算案は、1兆1514億円で過去最高額と報じられています。

予算編成方針においては、「安心・誇り・挑戦」をキーワードに、深刻化する人口減少対策を最優先課題としています。

新たに就任された横田知事は、広島県の基幹産業である農林水産業を「県経済を支え、中山間地域を守る生命線」と位置付けておられます。

地域の特色を生かし、稼げる農林水産業への構造転換など、農業振興を大きな柱として取り組まれます。

本町もしっかりと歩調を合わせ、中山間地域の「資源」を活かした施策を力強く連動、展開してまいります。

本町の「令和8年度予算の概要と主要施策」についてご説明申し上げます。

今後は、人口減少を前提とした「縮充社会」の実現に向け、着実に歩みを進めていかなければなりません。

本年度は「持続可能性の確保」を最重要テーマに掲げ、第3次長期総合計画および第4次行財政改革プランに基づき予算を編成いたしました。

既存の補助事業や事務事業を抜本的に見直し、健全な財政運営と町の未来を見据えた内容となっております。

その中でも、特に皆様にお伝えしておきたい施策や重点事業を中心に、分野ごとにご説明いたします。

はじめに、「防災体制の充実と生活交通の確保」についてです。

行政運営の基礎として、「防災体制の充実」に万全を期します。

福山地区消防組合への分担金として約3億4,600万円を計上し、救急救命体制を維持するとともに、指令システム及び消防デジタル無線や小塚出張所積載車の導入など、計画的な更新を進めます。

さらに「防災・減災への取組」として、災害が頻発する時代において、地域全体で災害リスクを軽減することは行政の責務です。

本年度は、防災・減災計画の更なる充実を図りつつ、新規事業として「ジュニア防災」を導入し、次世代に向けた災害教育を推進します。

次に「生活交通の確保」についてですが、幹線バスや町営バス、ふれあいタクシーの運行を継続し、日常生活に欠かせない移動手段をしっかりと守ってまいります。

さらに、本年度は新たな挑戦として、ふれあいタクシー事業へのマイナンバーカード等を活用したDXを導入いたします。

これにより、利用者の利便性を向上させるだけでなく、運行事業者の事務負担軽減や行政事務の効率化を同時に実現し、持続可能な公共交通網を構築してまいります。

高齢者の皆様が、通院や買い物に不自由なく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりに邁進する所存です。

次に、「戦略的な関係人口の創出と情報発信」についてです。

関係人口の創出は、いわば「第三の人口」を育む取組と捉えています。

幸いなことに、神石高原町をかけがえのない「生まれ故郷」として、また「第二のふるさと」として愛し、共に課題解決に歩んでいただける「応援団」が数多くおられます。

このことは、町の持続可能性を高める上で極めて重要です。

SNSやメディアを戦略的に活用し、企業版ふるさと納税の推進とも連動させ、「神石高原町だからこそその価値」を全国へ発信してまいります。

また、様々な施策の根拠となるのが、国勢調査をはじめ農林業や経済センサスといった基幹統計です。第3次長期総合計画の進捗検証と併せ、データに基づいた実効性の高い町政運営に繋げてまいります。

次に、「協働のまちづくりと情報通信基盤」についてです。

まず、現在本町では、ふるさと納税の戦略的推進により、全国にファンが広がり、貴重な自主財源の確保に繋がっています。

また、移住・定住対策では、空き家情報バンクやリフォーム補助をはじめとする移住者の受け皿づくりにより、地域に新たな活力を呼び込んでまいります。

今後の住民自治組織のあり方においては、人口減少を前提とした「縮充」の理念を、行政・町民ともに共通認識とすることが重要です。

地域の要である協働支援センターの運営において、住民の皆様自らが地域課題を解決する活動を伴走支援します。

さらに、神石高原町第2次DX推進計画に基づき、生活インフラの基盤である「情報通信基盤整備事業」を推進し、計画的な設備更新において、安定的かつ高度な通信環境を確実に維持・向上させてまいります。

次に「確実な徴税と住民サービスの向上」についてです。

行政サービスの根幹を支えるため、適正な賦課とそれを確実に執行する徴収

体制の堅持が不可欠です。引き続き、「確実な徴税と公平な負担の徹底」を重要課題として推進してまいります。

窓口業務においては、国の進める事務の標準化やデジタル化を推進し、書かない窓口の定着など、住民サービスの向上に努めます。

次に、「次世代を育む「子育て日本一」のまちづくり」についてです。

今、私たちが最も注力すべきは、未来を担う子どもたちの健やかな成長と、それを支える保護者の皆様への「切れ目のない支援」であると考えています。

まず、若い世代の子育てや移住・定住を強力に後押しするため、誕生祝い金や入学祝い金の支給、さらには住宅取得への助成など、一定の見直しを行いつつ、「神石高原町で家族の未来を描ける環境」を整えます。

また、育児や子育ての不安や悩みに寄り添う相談体制を一段と強化するため、令和6年度に設置した「こども家庭センター」を核として、妊娠期から子育て期まで切れ目のない伴走型の相談支援を継続します。

さらに、子育て親子の交流の場である「おひさま広場」や「保育所広場」の充実を図るとともに、地域で子育て家庭を支え合う「ファミリーサポートセンター事業」の充実、子育てサロンの開催や子どもの居場所づくり等、子育て家庭を孤立させない取組や、地域全体での子育て家庭の見守り等、子育てにやさしいまちづくりをめざします。

保育の現場においては、引き続き指定管理も含めた町立保育所5所の適切な運営を行います。

さらに、令和9年4月から導入する、インクルーシブ保育を視野に入れた、こばたけ保育所の民間委託に向け、着実な準備と引継ぎを行います。

また、4月から「こども誰でも通園制度」を開始するなど、保護者の皆様に安心してお子様を預けていただける保育体制の維持向上に努めます。

さらに、豊かな感性を育む「本物体験事業」や、国際化社会への適応力を養う「英語教育推進事業」を継続し、子どもたちの無限の可能性を拓きます。

次に、「神石高原町ならではの共生社会の実現」についてです。

「高齢者配食サービス」を継続し、食事の提供とあわせた安否確認を通じて、高齢者の孤立防止と在宅生活の安心確保に努めてまいります。

また、障害のある方々が地域で自立し、社会とのつながりを持ちながら働くことができるよう、就労支援や就労奨励金制度の適切な運用を通じて、安定した就労の継続を支えてまいります。

生活困窮者に対する自立にむけた伴走支援を進めるとともに、避難行動要支援者名簿の活用を通じて地域での見守りや支え合い体制の強化を図り、町全体のセーフティネットの充実に取り組んでまいります。

医療・介護の分野においては、国民健康保険、後期高齢者医療保険、介護保

険の安定的な運営を基盤とし、在宅医療と介護の連携を一層強化してまいります。

特に認知症対策は重要な課題であり、「脳いきいき教室」の継続と内容の充実を図るとともに、「通いの場」や「認知症予防カフェ」などの地域の交流拠点を充実させることで、発症予防と早期対応を進め、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをめざします。

さらに、「通いの場」の立ち上げや継続を支える世話人の皆様の活動を引き続き支援するとともに、フレイル予防の拠点としての機能を高め、地域活動への参加を促す新たなポイント事業について、町公式LINEの活用も視野に入れながら仕組みづくりを進めてまいります。

引き続き「地域全体で支え合う、神石高原町ならではの共生社会の実現」に向け、福祉施策の充実に邁進する所存です。

次に、「安心の医療体制と健やかな暮らし」についてです。

すべての町民が、住み慣れた地域で健やかに自分らしく暮らし続けること。

これは住民の幸福度（ウェルビーイング）向上の根幹です。

議会の皆様と共にめざす、誰もが自分らしく輝き続けられる「健康長寿の町」の実現も、その重要な柱の一つです。

そのために、まず重要なことは「医療体制の維持」と「人材確保」です。

地域医療の最後の砦ともいえる町立病院においては、「病院事業の安定した経営」を支援し、救急医療や日常的な診療体制を堅持してまいります。

深刻な医師・看護師不足に対しては、「医療従事者奨学金貸付事業」を継続し、将来の本町の医療を担う志の高い人材の育成と確保に注力します。

すべての町民の安心の確保と経済的負担の軽減を図り、健やかな暮らしの実現に努めます。

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症はもとより、高齢者の重症化を防ぐ肺炎球菌、そして近年ニーズが高まっている带状疱疹の予防接種についても支援を継続します。

また、病気の早期発見・早期治療に向けた「特定健診・がん検診」の受診率向上を喫緊の課題として取り組みます。

「生活習慣病予防」では、これまで実施してきた健康ポイント事業（健康マイレージ）を見直し、さらなる健康意識の向上を図ります。

次に、「力強い産業の再生と活気ある地域経済」についてです。

本町の基幹産業である農林業を守り、商工・観光の力で新たな活力を創出することは、持続可能な町政運営の要です。

まず農業においては、赤と黒のプロジェクトを引き続き推進するとともに、後継者育成を図ってまいります。

また、農業委員会と連携した遊休農地の解消にむけ、令和6年度に作成した地域計画を活用しながら進めるとともに、中山間地域等直接支払制度の活用により、多面的機能を持つ農地の維持を支援します。

昨今の国際情勢による肥料高騰対策支援も継続し、耕畜連携による農家の経営安定に全力を尽くします。

喫緊の課題である有害鳥獣対策では、捕獲体制の推進を図り、営農意欲を削ぐ被害の減少をめざします。

林業分野では、森林環境譲与税を戦略的に活用し、適切な森林整備や担い手確保の取組を進めることで、豊かな山林資源を次世代へ引き継ぎます。

商工分野におきましては、令和7年度繰越予算により、国の物価高騰対策臨時交付金を活用し「商工会育成支援」の集中的な拡充を図るとともに、生活者支援として商品券配布を行い、町内の消費喚起を図ります。

併せて、国の補助事業や工場等設置奨励事業を通じて企業誘致にも取り組みます。特に、本町の基幹産業である農業分野における企業誘致を強力的に推進し、町内での継続的な雇用を創出するとともに、地域所得の向上に繋がります。

本町への進出を前向きに検討されている企業もあり、着実な実現に向け、全力を尽くしてまいります。

観光分野では、「観光団体育成事業」により充実を図り、特に、都市部との交流拠点である「道の駅さんわ182ステーション」では、町内外の人々が集う

賑わいの核として、活気ある地域経済の実現に取り組みます。

次に、「安全・強靱な基盤整備」についてです。

「農業基盤整備促進事業」や「農林道整備事業」を計画的に実施し、生産性の向上と営農環境の改善を図ります。

昨今の異常気象への対応として、令和7年9月発生の豪雨災害による農地及び農業用施設災害復旧事業を最優先で進め、過年発生分も含めた早期の復旧に全力を挙げ、農家の皆様の不安解消に努めます。

また、「社会資本整備総合交付金事業」を最大限に活用し、生活道路の改良を進めるほか、「国県道整備」についても、県に対し早期整備の働きかけを継続してまいります。

さらに、地籍調査事業を計画的に推進し、適正な課税基盤の確立、災害時対応の迅速化、円滑な土地利用の促進を図ります。

最後に、「未来を拓く人と文化の創造」についてです。

詳細は教育長が申し上げますが、次世代を担う子どもたちが、この神石高原町で学び、健やかに成長することは、町の持続可能性そのものであります。

国際化社会を生き抜く力を養う取り組みである、「ALT活動事業」や本町唯一の高校である「県立油木高校」との連携は、教育行政における最重要事項

の一つです。

「油木高校教育連携支援事業」を通じ、海外体験事業や魅力ある部活動の支援など、独自の支援を継続的に展開いたします。

また、さらなる子育て世帯の経済的負担の軽減策として、令和8年4月からは、国が示す学校給食費の抜本的な負担軽減策として小学校給食の完全無償化に取り組んでまいります。

福山シティFCユース生も、新たな町民として、「侍寮」での生活をスタートさせています。引き続き、福山シティFCとの連携を密にし、スポーツを通じた地域振興に取り組むとともに、流入人口による町の活力向上、油木高校入学者の安定的確保などに、大きな期待を寄せているところです。

以上、それぞれの分野での主な方針を伝えさせていただきました。

具体は、予算審議の際にご提案させていただきます。

次に、令和8年度当初予算の概要についてご説明します。

令和8年度一般会計当初予算案は、108億2,000万円を計上いたしました。

前年度対比9.5%減（11億3,600万円の減）です。

財源につきましては、町税は昨年度より1.8%増の9億6,907万円を、また、地方交付税は前年度5,000万円減の50.5億円を見込んでおりま

す。

次に、主な特別会計ごとの予算です。

国民健康保険特別会計が前年比で1.3%、1,244万円の減となる9億6,106万円を、後期高齢者医療特別会計が前年比で13.2%、5,215万円の増となる4億4,800万円を、介護保険特別会計は保険事業勘定1.3%、2,400万円の減となる18億3,100万円、介護サービス事業勘定5.7%、119万円の増となる2,189万円を計上いたしました。

病院事業会計では、前年度から6.2%、3,038万円の増となる5億2,397万円を計上いたしました。

また、農業集落排水事業会計は、3億2,104万円余となりました。

本年度の予算は、第4次行財政改革プランに基づいた「事務の効率化」や「補助事業の見直し」などの取組に対し、町議会、住民の皆様のご理解とご協力により、目標額を達成することができました。

この場をお借りし、深く感謝申し上げます。

引き続き、財政規律を堅持しつつ、将来に責任のある行財政運営と持続可能なまちづくりを進めてまいります。

結びに、町政に対する私の不退転の決意を申し上げます。

世界、そして日本が混迷を極め、行く先が見通しにくい今こそ、私たちはこ

の大地に根を張り、知恵を出し合い、前へ進まなければなりません。

本町は今、急速に進む人口減少と極めて高い高齢化率といった、避けては通れない局面に立っています。

既存の仕組みを見直さざるを得ない局面も訪れるでしょう。

しかし、私はこの現実を前に、決して立ち止まることはいたしません。

幸いなことに、この町には私たちの志に共感し、手を携えてくれる多くの「繋がり」があります。

早くから取り組んできた民間企業との連携や関係人口の構築は、今、確かな形となりつつあります。

この「人の繋がり」こそが、未来を切り拓くための最も強固な基盤であると確信しています。

財政的な制約を、知恵を絞る契機と捉え、町民の皆様との対話や官民連携を最大限に活用することはもとより、国や県、さらには近隣自治体との多層的な連携をより一層深化させてまいります。

私たちがめざすのは、「未来から信頼されるまちづくり」です。

今取り組んでいる施策は、未来を生きる世代に対して「責任あるものだ」と胸を張って言えるのか、私を含め職員全員がこの問いを常に自戒し、信頼される行財政運営に邁進してまいります。

これまで新庁舎や新病院の建設、重要施設の拠点化、生活インフラの整備を計画通り進めてまいりました。

今を生きる方々の暮らしを守る必要最低限の基盤は整いつつあります。

同時に、次世代への備えである基金も一定額確保することが出来ています。

令和8年度当初予算案は、私が町長に就任して以来、2番目に少額な規模となりました。「過去最高」を更新し続ける国や他自治体とは、真逆の歩みに見えるかもしれません。

しかし、私はこれこそが、時代の先を見据えた「持続可能な自治」の姿であると自負しております。

財政を整え、インフラを守り、次世代を育てること、この地道で着実な歩みの先にこそ、町民が誇りを持ち、誰もが夢に向かって挑戦できる土壌が生まれると信じて疑いません。

この困難な時代を乗り越え、輝く未来を切り拓くために全身全霊を捧げることをお誓い申し上げ、私の所信表明とさせていただきます。

議員各位におかれましては、活発なご議論をいただき、ご可決賜りますようお願い申し上げます。

ご清聴、ありがとうございました。

神石高原町長 入 江 嘉 則